

米パワーマットの実用化試験

JAきょうわ

谷内 貞夫



①2列4本の散水ライン(約1.6ℓが限界、調整可能)



②実際の散水状況



③軽いため、たまにトレーが浮く(調整可能)。



④約2ℓの水量にするため、手動で散水。



⑤覆土して完成。従来品約8キロに対し約半分の重量。



⑥軽いため前後にずれることあり。土が少量のため埃が少なく綺麗

試験目的

米パワーマットの実用化の検証

試験作物 及び品種

水稻

試験資材 及び数量(規格)

米パワーマット(200枚)

慣行資材

土苗

資材使用期間

4月～5月下旬

試験内容

- ①試験枚数: 敷紙入50枚、敷紙無50枚
- ②試験月日: 平成24年4月23日
- ③播種時評価
良: 培土作業が無い。軽量なため持ち運びしやすい。
悪: 水2ℓを播種機だけでかけられないため、手間がかかる。粉撒き⇒散水ラインのため水圧を強めると粉がはじかれる。
- ④今後: 約一か月間の育苗管理(2日に1回の灌水等)を随時現地にて確認。

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

前田支所の育苗センターで播種機により播種作業を実施。覆土以外の土を使わないので播種機に土埃が付きづらく、衛生的でかつ故障等が起きづらいと思う。播種機には灌水ラインが2列ある。約1.6ℓが限界なので、2ℓ灌水するには調整が必要である。播種機では粉を撒いた後灌水するため、水圧を強めると粉がはじかれる。組合員への配送時、30枚梱包で配送しており、土苗は約240kg、マットは約120kg程度と軽量なため、安全で作業しやすい。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

初期生育はマットの方が草丈が高く、葉色で土苗に優った。マットの縁が枯れたよう(白く)になったが、マットに含まれている粉状のケイ酸分が苗に吸われることによって発生するとのこと。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 軽量で作業しやすい(土苗約8kg、マット約4kg)

【問題点】: 播種機を改良して2ℓの灌水を行う必要がある。

(4)雑草・病害虫の発生について

マットは無菌であるため、土苗よりも病害が発生しやすいのではないかと。

モニター感想

マットの方が草丈が高く、葉色も良かった。灌水作業についても自分の感覚で行っており特に問題は無く、苗状況も良好だった。

JA担当者の感想(池田係長)

前田の育苗センターでの播種試験では、覆土以外の土を使わないため、埃が少なく綺麗で、故障等が起きづらいと思われる。重量も軽いので、30枚梱包で組合員に配送しても、土苗よりも安全で作業性が非常に良い。トレーにマットを入れる際、若干きつく、大量のマットをトレーに入れる作業は手間が掛かると感じた。育苗状況については良好で、生産者の評価も高かった。

今後の使用について

継続して使用したい。
価格が土苗に比べて高価であるが、それ以上にメリットも大きく普及性は高いと思われる。

1 クリントート

2 高温対策

3 害虫忌避効果

4 滑雪効果

5 生分解性マルチ

6 その他

7 酪農資材